

(社)日本原子力学会  
第45回倫理委員会議事要旨

日 時 H21.7.28(火)9:30~12:40  
場 所 東京大学工学部8号館502室  
出席者 北村、大場、班目、小川、小沢、鐘ヶ江、久保田、作田、杉本、谷、辻、  
宮越、三好、矢野(14名)  
弘津(傍聴者)

配布資料

- 資料 45 - 1 第44回倫理委員会議事要旨(案)
- 資料 45 - 2 第12回「原子力に関する倫理研究会」開催のご案内
- 資料 45 - 3 2009年度秋の大会(9/16-18)企画セッション提案書
- 資料 45 - 4 前文案一覧
- 資料 45 - 5 日本原子力学会倫理規程の変遷(回覧)
- 資料 45 - 6 原子力発電所関係者との倫理意見交換会の開催について(案)
- 資料 45 - 7 日本原子力学会倫理委員会第四期委員名簿(非公開)
- 参考資料 45 - 1 日本原子力学会倫理委員会の活動(機械学会年次大会予稿)
- 参考資料 45 - 2 技術倫理教育の実態調査アンケートの結果

議事

1. 資料 45 - 1 により前回議事要旨を確認した。
2. 久保田新委員および新事務担当者の挨拶があった。
3. 資料 45 - 2 を用いて矢野委員より第12回原子力に関する倫理研究会の説明があった。学生16名、社会人16名の計32名が参加の予定であることが紹介され、実施方法の最終確認を行った。JCO 臨界事故については詳しい報告が別途出ているので、事実関係の把握の議論に終始することは好ましくない。そちらに議論が進むことを妨げるわけではないが、倫理委員としては資料の範囲内での議論となるよう心がけることとした。
4. 宮越委員より資料 45 - 3 を用いて2009年秋の大会の企画セッションの内容の説明があった。松浦前原子力安全委員長の講演の後、電力・技術士会からコメントを求め、最後に会場全体での意見交換を行うこととした。意見交換では原子力行政ではなく倫理に焦点を合わせることとし、座長は北村委員長が務めることとした。なお、企画セッションのテーマはあくまで「安全文化の醸成と技術倫理の関わり」であることを確認した。その趣旨を再度講演者とコメンテーターに連絡することとした。セッションの内容は貴重であり、記録をきちんと残すこととした。
5. 班目幹事より倫理規程改訂のアンケートによる検討の進捗状況が説明なされた後、資料 45 - 4 を用いて前文について議論した。「タイムリーな説明ができる活動」という表現

は誤解を招く可能性があることから「説明責任を果たせる活動」のようにすることとした。現代は、説明責任とともに倫理的な活動もこれまで以上に求められているが、倫理的という表現をどこに入れるかをまずアンケートにより検討し、その後その他の点についても検討を続けることとした。

6．大場副委員長から資料 45 - 5 を用いて、倫理規程改訂の変遷のまとめ作成の経過報告があった。ホームページ掲載の際の体裁については大場副委員長の提案を了承した。

7．大場副委員長から資料 45 - 6 を用いて原子力発電所関係者との意見交換の場としての倫理研究会開催案の説明があった。率直な意見交換を行うため、原則非公開とすることとし、北陸電力志賀発電所にて平成 22 年 2 月初めに開催することとした。なお、今期の委員会活動は平成 21 年 11 月までであるが、本件に関しては次期委員会に申し送り、実施することとした。

8．班目幹事より、次期委員会委員の募集方法の提案があり、了承された。応募状況をみた上で、11 月の委員会で理事会へ推薦するメンバーを決め、11 月 26 日の理事会で次期委員会委員を決定してもらうこととした。

9．班目幹事より、参考資料 45 - 1 の説明があった。

10．矢野委員から参考資料 45 - 2 に基づいて、技術倫理協議会で実施した技術倫理教育実態調査アンケート結果の説明があった。

11．次回は 9 月 18 日 9 時 30 分より東北大学で開催することとした。